

流山稲門会

【交譲葉】俳句の会 報告

令和五年三月句会（第一三〇回）

兼題 「雪解け」

開催日 令和五年三月二十五日

開催場所 流山市生涯学習センター

出席者 七名

投句者・選句者 八名

（六点句）

●雪解や待つも惜しむも伊吹山 玄鳥

選評：南国育ちなので雪解けにはあまり縁がなかつたが句中の待つも惜しむという気持ちにはよく分かる。雪国の人とウインタースポーツを楽しむ人がそうだろう。この中七がこの句を秀逸なものにしている。 （小牧記）

（四点句）

●落椿仰ぎ一息また石段 寿歩

選評：椿の花は咲いて絵になり散って絵になり地に落ちて絵になる。そんな様を階にありて作者は何を思いながら石段を登っているのだろうか？降りる途中なのだろうか？一息とは何かあったのだろうか？などと想像させて頂きました。 （則子記）

●腰かばいゆるりの歩み花菫 寿歩

選評：寒い冬も峠を越してそろそろ暖かくなる早春。きつと春の気配を感じて、いち早く外に出て空気を味わいたい人がいる。しかし、そこはこの句の中句の「ゆるりの歩み」という表現でこの散歩者の年齢や春をじっくり味わいたいという姿が確実に想像できる。そして下句に「花菫」と持ってきた。季語の使い方が実に上手である。作句者の感性を感じます。 （互酬記）

（三点句）

●立ち漕ぎのセーラー服や風光る 玄鳥

選評：セーラー服の生徒がさっそうと自転車のペダルを立漕ぎしている。折から柔らかな春の風が吹いていて、陽光の中でスカートから伸びている生足のふくらはぎも眩しく、健康な色気をも感じさせる爽やかな句である。 （夢心記）

（二点句）

列ならば君と目の合う雪解の日 寿歩

雪解けに労り歩む老夫婦 徹心

母の忌や頼朝桜供えをり 則子

（一点句）

雪解けや彼の地に残る軍靴跡 小牧

我が足も抜き足差し足雪解道 互酬

雪解けて道端の草伸び伸びと 艸寛

白木蓮突元として咲き出づる 夢心

笹鳴きは山岳コース響きをり 則子

菜の花に見え隠れつつ遍路旅 小牧

春風に雲流さるる昼の月 互酬

つくしんぼ手折るは母の優しい手 艸寛

啓蟄の妊婦胎動打ち明けり 玄鳥

（投句）

大雪解アルペンルート開通す 夢心

雪解けや山肌現わし友と歩す 則子

味爽の雪解け道に陽煌めく 徹心

雪解けの道の野草よ 徹心

健気（けなげ）なり

朧月何を恥じてか雲隠れ 艸寛

この世界何はさておき春を呼べ 互酬

侍J桜咲かせにアメリカへ 夢心

引き揚げを共にせし雛最後とす 小牧

『句会後記』

今月半ばからマスクの着用は各自の判断でということになりましたが、スギ花粉対策とすることもあり外している人はまだ少ないようです。句会では全員着用。今月も自由活発な雰囲気で行われ、花冷え、菜種梅雨の寒々しさを暫し忘れさせてくれました。 （玄鳥記）